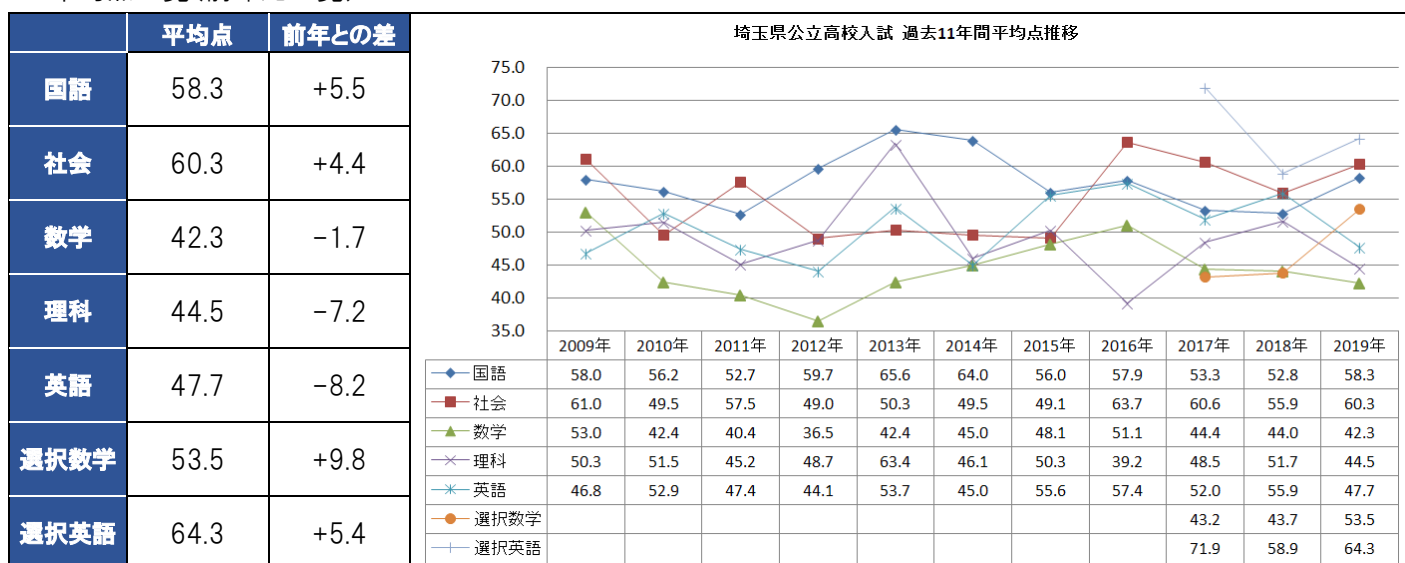


第6回 2019年度埼玉県公立入試 平均点の考察

■埼玉県公立入試2019の平均点からの考察

平均点一覧(前年比一覧)



参考資料 過去11年間の公立入試平均点の推移と過去3年間の学校選択問題の平均点の推移

■学力検査問題

国語	大問2での問題形式の変更もありましたが、+5点の増加となりました。新傾向の問題が出題されましたが、設問が「書き抜きと記号で答える問題」であったため難問ではなく、解けた生徒も多かったようです。その他の問題傾向も変わっていないため、平均点の増加につながったものと考えられます。
社会	平均点が再び60点を超えました。社会の問題は典型題の出題が多く、しっかり暗記していれば得点できる問題もあり、昨年から見ても大きな変化はありませんでした。
数学	昨年より微減。出題傾向はほぼ固定化されており、出題難易度も昨年と大きな変化はないので、得点できる問題を確実に落とさない勉強をすることが重要です。
理科	平均点が-7点と前年よりダウンしました。昨年出題されていなかった「考え方を書く記述」や「化学・物理・生物・地学の4分野の知識の正確な理解」を問う問題が多く出題されたことが平均点ダウンの原因と考えられます。
英語	平均点が-8点と前年よりかなりダウンしました。原因は以下の3点にあります。①リスニングの設問が全て英語表記となった。②解答の記述量が昨年より増加した。③英作文の問題難易度が上がった。

■学校選択問題

数学	平均点が約10点アップ。昨年度よりも問題を解ける受験生が増えてきており、難関校を受験する生徒は1問のミスが大きな失敗になりかねないものとなっています。
英語	実施初年度に次ぐ高い平均点となり、前年比+5点となりました。やはり、長文読解での正答率をいかに上げられるか、英作文の課題をいかに攻略し得点するかが今後の攻略のカギとなりそうです。

